

平成 27 年度 「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)  
1 対 1 対談 (大紀町) 会議録

1. 対談時間

平成 27 年 11 月 10 日 (火) 16 時 40 分～17 時 40 分

2. 対談場所

原始の不動滝 紀勢笠木溪谷・もみじ茶屋  
(大紀町崎 4339-2)

3. 対談市町名

大紀町 (大紀町長 谷口 友見)

4. 対談項目

1 地方創生について

- ① 少子高齢化対策
- ② 第一次産業の振興について

2 減災対策について

5. 会議録

(1) 開会あいさつ

知 事

大紀町の皆さんこんにちは。今日は大変貴重な機会をいただきまして谷口町長ありがとうございました。後で、サミットの事とかはゆっくりお話をさせていただきたいと思いますが、冒頭少しだけ挨拶をさせていただいておりますけれど、皆さんご案内のとおり 2021 年(平成 33 年)、オリンピックの翌年には三重県で「三重とこわか国体」というのが開催をされます。加えて、全国障害者スポーツ大会も開催をされます。今その国体に向けて選手の強化をさせていただいているところなんでありますけれども、皆さんもご案内のとおり、大紀町出身の、現在三重高校におります阪本祐也君が今回、国体の競泳で優勝しました。実は三重県勢で、三重県のチームから国体の競泳で優勝するのは 37 年ぶりなんです。そういうような形で大紀町出身の阪本君が優勝してくれたことは大変弾みが付きましたし、そのおかげもあって、今年の国体は 16 年ぶりに 20 位台、27 位になりました。これから、ぜひスポーツの方も頑張っていきたいと思しますので、また皆さんのご理解と子どもたちのあるいは大人の皆さんのスポーツの向上もぜひご協力いただきたいというふうに思います。

それから今年は、大紀町合併 10 周年ということで、谷口町長を先頭に町民の皆さんが一致団結してこの 10 年間過ごしてきていただきました。この非常に特

色のあるそれぞれの町であったわけでありましてけれども、それが本当に特色を出しながら、次の未来に向かって一緒になって頑張っている大紀町、非常に県としても注目をしているところでもありますので、ぜひ皆さん、町民の皆さんの一体感を谷口町長の元、さらに深めていただいて、ますます発展をしていただけることを心から期待をしたいというふうに思います。

それとまた後に対談の中でサミットの事とか今日の議題についてのお話をさせていただきたいと思います。今日はどうもありがとうございます。

## 大紀町長

皆さんこんにちは。平日ということで、多分 17 時半となりますと真っ暗闇になるのかなと、お疲れのところを恐縮いたしております。まず皆さん方にお礼ですけれども、お陰で 2 期目もバックナインに入りまして、残すところ 17 ヶ月ぐらいとなりました。この間のご協力ありがとうございます。先ほども柏崎婦人部の方が「会員が 21 名と少ないので、もう少し増えてほしい」とおっしゃっていました。特に旧紀勢町当時の柏崎は錦と比べますと大変ご婦人方がおとなしいというか、おしとやかな方たちばかりで集まりが少ないということで、何か良い手は無いかなど考えさせられた部分もありました。

それともうひとつお願いなんです、七保、錦、大内山以外の滝原、阿曾、そして柏崎は遺族会が無いんです。合併と同時に無くなりました。11 月 4～6 日にバスで 8 時間半かけて靖国神社の奥の院まで行ってお参りをさせていただきました。3 年に 1 回ずつということで、この 7 年間で 3 回目を実行しました。僕としては国のために犠牲となられた諸英霊に対して、やはり一度は靖国さんに行ってお参りしてやってもらったらなあ、金は要りますけれども、その部分は質素節約で溜めますので、どうぞ後 2 年ぐらいしたら実施しますので、こんなことはめったにないので、今言われた滝原、阿曾、柏崎の 3 区の方たちにも、皆さん 70 名の方にも 1 号車と 2 号車をお願いしたんです。今度トークがあったら町長、皆が居る所でこれから 1 年間喋れとご下命がありましたので、よろしくお願いします。

## (2) 対談

### 1 地方創生について

#### 大紀町長

地方創生ですけれども、大紀町長という立場も、県の町村会長という立場も諸手を挙げて国、県に対して大変ありがたく感じております。その一環としましては、1 万人を切る小さな規模の全国町村が 928 町村あります。そのうちのひ

とつが大紀町です。三重県では、合併前は町村が 56 あったんです。今は村がひとつもなくなり、15 町になりました。近くでは大内山村とか宮川村とか勢和村がなくなりました。そういった状況の中で、国家が地方創生で、ばらまきをしないように、知恵あるところに厚くと言っています。皆さんもご理解いただいておりますように、貧乏でも人間として、やはりここに住んでよかったと、人並みの表現でしょうけれども、そういった支援策をずっと旧紀勢町当時から行ってきました。後ろに掲示してありますように、6 期の 23 年間の集積でありますということで、お互いにキラッと光る大紀町を目指しております。皆さん方にもご理解いただきたい。それと、その方に地方創生のお金を流用させていただきたいと考えております。

次に、2 点目は第一次産業の振興を、無駄なことをする時間は無いし、残念に思っていますのは、ここには企業が来ません。なぜかというと名古屋圏・大阪圏・関東圏でも遠いでしょ。だから諦めたというわけではないけれど、我々の大紀町民の背丈に合った農・林・水・商業、それに相当な力を入れています。防災につきましては、鈴木英敬知事、前の野呂知事、この場を借りて知事にお礼を申し上げます。その理由といたしましては、今錦地区だけではないんです。大内山川の氾濫へ、知事がちょうど就任された 5 年ほど前、その時にも知事に骨を折っていただいて、三重県・和歌山県・奈良県トータルでして、激甚災害 601 億円以上をやってくれました。上流は大内山川から藤川、一部七保のほう宮川を完全に整備をしていただきました。そして一方で錦地区の減災ですが、右側の方が減災計画で知事さんが管理者なんです。3 種漁港といいまして、それと波切・安乗ぐらいなんです。3 種漁港というのは。鈴木知事さんが管理されてやっていただいています。国・県のお金の下で、町は一銭も出さなくても 130m 仕上がっています。それから全長 100m を来年の 3 月までに仕上げさせていただきます。延べ平成 25~27 年度で 3 年間でやっていただきます。そして展示した写真の下の部分ですが、私なりに、万里の長城をもじって、怖いイメージではなしに、ちょっとシャレて「津波長城」と呼んでいます。海拔 8m です。それで高さ 1m10cm、延長 9m 手すり、これも強固なものです。場所は魚市場のところ。ここで大体 150m ぐらいが今年中に目途が立ちます。そういった事でも知事にお礼を申し上げます。これは県下どころか全国でも福島・宮城・岩手は別としまして、3 種漁港であるから、災害があった時にここを基地にして支援物資を丘へ上げるため、強固な構造物を作っていただいているというようなことです。それと、一般には色々な話もしたいんですけども、僕はこれで終わらせていただきますので、皆さんも課題である伊勢志摩サミットは、運よく、知事のご努力のおかげなんだろうと思いますが、決まりました。主役は伊勢市、志摩市、鳥羽市、そして南伊勢町、そういったことになっていきますけれども、三重県を

挙げてやりますので、子どもたちとか我々で出来るところは応援をさせてもらい、町内の中でもたくさんの方の寄付をいただいて、ご協力をいただいているような状況です。そういうことですので、後は鈴木知事さんの思いを皆さんに報告というか聞いていただいて。知事、よろしくをお願いします。

## 知 事

ありがとうございます。今町長から3つテーマのお話をいただきましたので、多分20分ぐらいになると思いますけれども、お話をさせていただきたいと思えます。まずその3つの話題に入る前に、先ほど町長がおっしゃっていただいた遺族会の結成の事ですね。実は私、昨日沖縄に行ってきました。沖縄何しに行ったんですか、というのは沖縄の糸満市というところに平和祈念公園があります。そこには、全ての47都道府県の慰霊碑が、慰霊の場所があります。摩文仁の丘というところなんですけれども、そこに三重県も三重の塔という、沖縄県や南方諸地域、フィリピンのレイテ島等、そういう色々な諸島で亡くなられた方々が、実は三重県関係だけで53000余の方々が亡くなられて、その方々の御霊を祭っている場所があります。それが作って50周年でしたので、今回全県の遺族の方々と、いつもは大体40人ぐらいで毎年行っていたいいるんですけども、50周年ということで、県の方の予算も出ささせていただいて、倍の83人の皆さんと私と県議会の議長と一緒に一緒に行ってお参りをしてまいりました。今年は先ほど町長からもありましたように、戦後70周年ということで、この8月15日、毎年両陛下ご参列いただいていたの政府の戦没者追悼式が日本武道館でいつもあります。ちなみに8月15日私の誕生日なんですけれども、毎年日本武道館に参拝させていただいておりますが、今年70周年ということでしたので、子ども代表団という形で12名の子どもたちを、初めて派遣しました。ちなみに70周年で他の県もたくさんやってきたんですが、東京都に次いで2番目に多い数の子どもたちを三重県が派遣をしました。そもそも遺族会の皆さんも三重県から行く人が東京・埼玉・神奈川・千葉の次に、5番目に多い方が毎年この8月15日に行っていたいいております。そういうような形で、戦後のこの繁栄に対する先人たちへの感謝、そしてこれを次世代につなげていかなければならない、この平和の尊さ・大切さを教訓としてつないでいかななくてはならないという形で個人のベースの活動だけではなくて、各地域にそういう遺族会という形の、県全体の遺族会も最近新世代の会というのをつくって、直接血が繋がってなかったりしても、そういうメンバーを入れて次世代につなげていこうという取り組みもしていただいておりますので、ぜひ全県各地域において、そういう平和の尊さ・大切さをずっとつないでいく活動がこれからも続いていってほしいと私たちも思っておりますので、最初町長おっしゃっていただいたような形で

この柏崎の地区の皆さんにもご協力をいただいて、遺族会の活動をやっていただけとありがたいなというふうに思います。今回は70周年でしたので、子どもたちにも参加をしてもらったり、県の戦没者追悼式においても、子どもたちに参加をしてもらって一緒に献花をしてもらったり、子どもたちに発表してもらおう平和の集いというのをやったりしました。「知らなかった」と、「こういうことだったのかというのを知らなかった」という子どもたちが大半でした。そして「自分で考えて、自分で行動していかななくてはならない」と言ってくれた子どもたちが大半でした。そういう機会を提供していくのは大人の責務だと思います。ぜひそういう形でこの柏崎の皆さんや大紀町の皆さんのご協力、先ほど町長から言っていたいただいたメッセージの通り、ぜひご協力賜ればというふうに思います。それが1点目です。

2点目はサミットの話をしたいと思いますが、まずサミットを、後ろの歓迎で、三重の現場すごいやんかトークをやっていただけるところにオレンジ色と黄色のマーク中に青の線が入ってるマーク、ありますね。アレは実は三重県の活動をするときの三重の県民会議というのを作っているんですが、町長にもご参加いただいておりますけれども、この県民会議のシンボルマークなんですね。実はあのマークを作ってくれたのは、近藤敦也さんという四日市の人なんですけれども、彼は筋ジストロフィーの難病を患って、四日市にある県立北勢きらら学園という特別支援学校に8年前通っていました。日本であった前回の洞爺湖サミットの国全体のロゴマークを公募でデザインをしたのが近藤敦也さんでした。彼はその洞爺湖のデザインをしたことで、デザインの道で生きていきたいということで、夢を追い夢がかなって現在はNPO法人の中で仲間と一緒にプロのデザイナーとして活動を、筋ジストロフィーの病気と向き合いながら今やってくれています。国全体の、今年も今回の伊勢志摩サミットの国全体のロゴマークも作るんですけれども、その審査委員にも近藤さんも入ってもらって、官邸入りする。私と一緒に総理官邸へ近藤さんと一緒に行って、ロゴマークの審査をしています。非常に全国からも伊勢志摩サミットの関心が高くて、今回のロゴマークの応募は全国の小・中・高・特別支援学校の子どもたちから7084の応募がありました。実は洞爺湖の時は4200ぐらいでした。沖縄の時は5000ぐらいでした。ですので、それを上回る全国からの注目を浴びているサミットであります。ちなみにロゴマークの7084の内、一番多かった都道府県は、ほっとしましたけど三重県でした。これね、伊勢志摩サミットを三重県でやろうと言っているのに、一番多いのが東京ですという話ではね、愛知県でしたわというのでは私も顔が立ちませんので、これはもう大紀町も含め、市町の教育委員会の皆さんがご協力いただいて、子どもたちにそういう募集を働きかけていただいたおかげで三重県が一番多かったんですけれども、そういう全

国からも関心の高いサミットだからこそ、地元の足元の私たちや三重県民の皆さん、一人でも多くの皆さんに参画をしていただいてサミットを進めていくということが大事だというふうに思っています。この1対1対談はもう後今年度は残すところ3つぐらいですけれども、サミットが6月5日に決定してからも、いくつか1対1対談をやりましたが、これだけ道々サミットのものぶりを揚げていただき、これだけ大きくロゴマーク等を付けていただいたこの大紀町が圧倒的にナンバー1でありまして、町長には感謝申し上げるところでありますけれども、ぜひこの機運を町民の皆さんにもご協力いただきたいというふうに思っています。それなら具体的に何をしたらいいのか、という話です。確かに5月26日・27日、会議自体は1泊2日です。それも首脳の人たちは賢島でやります。配偶者、奥さんの人たちが地域回りますけれども、1泊2日なんて行くところが限られています。ですので、県内を全部首脳や配偶者の皆さんに行っていたくのは難しいと思いますけれども、私たちがお願いしたいのは、3つぐらいありましてね。1つは先ほど町長も話した寄附ですね。寄附はすでに8月31日から募集をして2ヶ月経っていませんけれどももう2億円を超える寄附を100件近くいただきました。これはふるさと納税の形でやっていますので、法人であれば損金算入されますし、個人であれば寄附控除されると、そういうような仕組みになっています。そういうような寄附もいいんですけれども、後は応援事業というのがあります。応援事業というのは例えば柏崎婦人会でやるイベントに「祝伊勢志摩サミット開催記念」のアルミ缶集め等でもいいんですけれども、何か皆さんがやっていただく活動、地元の活動、あるいは「祝伊勢志摩サミット開催記念」のふれあい祭り等でもよかったんですけれども、そういう皆さんが地域でやっていただく活動等に「サミットの開催を応援するよ」という趣旨を付けていただいて、三重県のサミット推進局に送っていただきましたら、ホームページに公表して登録をさせていただいています。こういう皆さんに応援をしていただいて、サミットを全県でやっています、というふうにやっていますので、ぜひどんな少人数の集まりのことでもかまいません。公序良俗に反するようなイベントは残念ながら登録できませんけれども、基本的には県民の皆さんが思いをこめてやっていただくものは登録させていただいていますので、ぜひどんな分野のどんなものでも結構ですので、ぜひご登録をいただいて、うちもサミットの応援をやっているよというのをひとりでも1団体でも多くお手伝いいただければと思います。

それからもうひとつは協賛事業というのがあって、実は例えば50日前ぐらいになってきましたら、クリーンアップ活動という、全県中を、そこに首脳が来るか来ないかわかりませんが、でも政府の関係者とか警備の関係者の人は相当広く全県に泊まったり買い物したり宿泊したり色々してきます。そうい

う皆さんをおもてなしするために、クリーンアップ活動とか花いっぱい運動というのをこれからやっていこうというふうに思っておりますので、そういうのに参加をしてもらうか、あるいは例えば協賛みたいな、軍手をたくさん持っている方がもしいたら、大紀町の柏崎地区でやる花いっぱい運動の軍手を提供しますとか、ゴミ袋を提供しますとか、大型土のうを提供しますとか、そういうような協賛事業みたいなものもあります。それもご報告いただいたら県のホームページでちゃんと公表させていただいて、こういうふうに応援を賜っていますということをお示ししたいというふうに思っておりますので、応援・協賛・附等の形でぜひご参加いただきたいと思っておりますし、さっきも申し上げたようなクリーンアップ活動とか花いっぱい運動とか、後その5月26日時点で高校生を超える人であれば外国語ボランティアを今公募をしていますので、そういうこともお手伝いしていただいたりするとありがたいというふうに思います。

それからそれとは別にやはり三重県の発信をする、大変重要な機会ですので、この大紀町の食べ物でたくさんいいもの、魚も肉も野菜もたくさんあります、酪農もあります、たくさんありますので、それを1品でも多くサミットで使ってもらえるように、首脳が食べるもの、あるいは配偶者が食べるもの、大体首脳と配偶者はお昼御飯・晩御飯・朝御飯・昼御飯までを1泊2日で必ず食べますので、そこになんらか使えるようにしたいなというふうに思っておりますのと、それ以外のマスコミの人たち、レギュラーの人たちに伊勢の県営サンアリーナに世界中のメディアの人たちが5000人ぐらい来ます。そこで24時間食事を提供しますので、そこで県内の大紀町も含めた食材の提供をぜひしたいというふうに思っておりますのと、後弁当をその警備の人等も含めて、最終的には最大で50万食ぐらい弁当を提供しますので、そのお弁当にも県内の食材を使っていきたいなというふうに思っております。弁当の供給業者自体は弁当のカラの回収も含めて、そういう廃棄処理も全部やってもらうので、後衛生管理もしてもらいますので、一定の規模の事業者になるかと思っておりますけれども、その協力企業みたいな感じで、地域の事業者の皆さんにもご協力いただく仕組みでやろうというふうに思っておりますので、そういう事業者の皆さんにもご協力いただきたいと思いますというふうに思っております。そういうような形のご協力。

それから、後は県産材、木をなるべく色々なところで使ってというふうに思っておりますので、そういうところでも三重県の魅力が発信できるようにしたいなというふうに思っております。ぜひ、「サミット、何か賢島でやるんでしょ、何かすごく遠い1泊2日のことなんでしょ」ではなくて、サミットが始まるまで、そしてサミットが終わってからでも皆で盛り上がっていく、応援をひとりでも多くの皆さんに参画して、そんな難しいこと、というよりも皆さんが普段活動していただいていることをサミットに活かす、そんな思いでやっていただけると

大変ありがたいというふうに思いますので、ぜひよろしくお話をしたいと思います。

ここから今町長から 3 つ言っていた事を少しだけお話をしたいと思います。少子高齢化の話と一次産業の話と防災減災の話をしていただきました。

少子高齢化の話は、三重県全体の高齢化率は 27% ですけども、大紀町は 44% というようなことであります。でも、高齢化率が高いからダメということではなくて、じゃあその状況をどう皆で受け入れて、そして元気な高齢者の方もたくさんいらっしゃるわけですから、そういうみなさんにどうお手伝いをさせていただいて活躍する場を作っていくかということが大事じゃないかなと思っています。合計特殊出生率は三重県が 1.45 になります。これは全国が今 1.42 ぐらいですので、全国よりは県が高いという状況になっています。この少子高齢化の中でひとつ大事なことは、家族の在り方とか家族形成は押し付けられて結婚するとか子どもを産むというものではないので、やはりそこはそれぞれの希望が叶う形にしていこうというのが大事なことだと思っています。でも、それが希望が叶っていないのは残念ながら現状があるんです。例えば、三重県で県民意識調査という約 1 万人の方々色々なことをお聞きしますと、理想の子どもの数というのは、大体平均で 2.5 人、2~3 人なんですけれども、実際は 1.6 人なので、1~2 人というような状況、なので 2~3 人欲しいのに 1~2 人ということで、子ども 1 人分ギャップがある訳なんです。これ色々な原因があると思いますけれども、ひとつはやはり子育てにお金がかかるというような部分はあると思います。そこで大紀町におかれましては町長を先頭に、議会の皆様のご理解もあって出産一時金なんかも非常に助かる、全国の中でも高いレベルの事をやっていただいたり、子どもの医療費なんかの助成も大紀町においては全県全国の中でもトップレベルを行っていただいています。そういう子どもに子育てにお金がかかるというような部分を少しでも軽減をしていく努力が大事だというふうに思っておりますし、2 点目の一次産業にもつながりますけれども、やはり若い世代が働く場を持って、そして共稼ぎで共働きでも全然問題ないので、共働きで所得を得るような働く場をしっかり作っていくということが大事だということと、最近結婚がだいぶ晩婚化しているというような状況でありますので、大体この 10 年間ぐらいで、三重県全体の婚姻数（結婚する数）が 1 万ちょっとあったやつが今 8000 ぐらいの婚姻数になっていますので、結婚する数もだんだん減っているというような状況ですし、初婚の年齢もだんだん、元々三重県は 10 年前ぐらいは女性の初婚の年齢が平均で 26~27 歳ぐらいだったんですけども、最近は 29 歳とか、全国的には 30 歳を超えているような状況にありますので、出会いがないというのはあると思うので、三重県では去年の 12 月から「みえ出逢いサポートセンター」というのを設けてこれまでも色々な県

内の各市や町でやっていただくイベントの情報提供、やはり、例えば大紀町で出会いイベントやってもらって大紀町の人だけ同士だと何か照れくさいのもあるでしょうし、周りが知っている、同級生だみたいなのもあると思うので、色々な例えば大紀町でこんな出会いイベントやりますよというのを全県に情報提供、メルマガ登録していただいている人に全員に提供するんですけども、その提供をして、じゃあ鳥羽の人が大紀町行ってみようかな、四日市の人が大紀町のやつ行ってみようかな、熊野の人も大紀町のやつ行ってみようかな、そういうふうになって出会いが生まれてくればいいなと、そんな支援をやったり、後は相談窓口も結婚についてやっています。でも残念ながらというか、1000件ぐらい相談受けているんですけども、半分が親から相談だったんですね、本人じゃなくて親から「何とかありませんでしょうか」みたいなそういうのが多いらしいので、親の皆さんへの結婚セミナーみたいなのを、現在そのみえ出逢いサポートセンターでやらせていただいています。そういう出会いの創出とか、もうひとつは子どもの時からライフプランを考えていく。やはり医学的に男性も女性も一定の、例えば女性で行くと卵子の数というのは生まれた時が一番多いわけです。それから一と減っていくわけですね。そういうようなこととか、男性も「いつでも俺は元気だ」とおっしゃる方もいらっしゃるかもしれませんが、実際に40歳を超えると精子の量が少なくなるというふうに言われています。もちろん個人差有りますけれども、そういうような医学的知識を知らなくて例えば女性で言うと35歳になると妊娠率と妊娠できない率が逆転してしまうと、そういうのがあつたりしますので、そういう医学的知識を小学校・中学校・高校の段階から学んでもらうような形を現在やっていますので、そういうことでしっかりと知識を身につけていただく。でもそのうえでどうするかはそれぞれの判断ですので、そういうふうにしていきたいというふうに思っています。後は子育ての支援等もやらせていただいたり不妊治療の支援等もやらせていただいているというような状況ですが、今6組に1組の夫婦が不妊治療をしているというふうに言われています。三重県は人工授精とか体外受精とか保険適用以外の不妊治療は、全部支援をできるように、助成金が出るような形になっています。この保険適用以外の支援を全部できるようになっている県はほとんどありません。もちろん所得制限があるので、やはり「所得がなかなかないけれども子どもが欲しいな、でも体の関係で不妊なので」というそういう人の希望をかなえていきたいと思っているので、やはりお金をたくさん持っている人もそうじゃない人も同じ支援というよりは、やはり一定の所得制限を設けさせていただいておりますけれども、そういうような形で応援をさせていただいていますし、不妊の原因の48%は男性にあるんです。日本ではほとんど、日本と韓国だけです、子どもがなかなか生まれないうきに検査に女性だけが行くのは。

他の国は男性・女性が一緒に検査に行って、原因がある方の治療をやりませけれども、日本と韓国だけです。女性だけが行って不妊治療やって、本当は男性に原因があるのに女性だけが大変な治療を続けていって、精神的にも金銭的にも大変になっていくというところがありますけれども、48%が男性に原因がありますので、三重県では全国で初めて男性の不妊治療の助成もやらせていただくことにしました。そういうような形で、少子高齢化、そして高齢化の部分は特に介護において介護の人材の確保がこれから大変重要になってきます。特に今まで言う要支援のところと介護予防の所はもう平成29年度までに全ての市町で総合事業という形でやっていただかないといけないこととなりますので、もちろん町役場の皆さんが色々仕組みを考えていただいていると思いますけれども、この地域をあげて、普段の日常生活と介護の人材が足りないのは、私は当時選挙の時に言っていたのは、例えば施設等で介護の人材の人がなかなか足りませんねと言っていて、介護福祉士等持っている人たちから聞くのは、例えばショートステイとかでもデイサービスとかでも特養でもそうなんですけれども、介護に直接関係ないことまでも介護福祉士がやらなければならない。例えば施設の草刈りとか洗濯とか、そういうようなもので介護の資格を持っていなくても地域の皆で手伝えればできるようなこと等もたくさんあると思うんですよね。県としては実はそういう介護助手みたいな方を増やしていく仕組みを今これからやっていこうというふうに思っていますので、そういうふうなこともやっていきつつさっき言いました総合事業ですね、日常生活の支援事業は本当に地域の皆さんの力を借りないと、役場の皆さんは仕組み作ってくれますけれども、地域の皆さんの力を借りないとできないことでもありますので、ぜひそういう形で皆さんのご協力の中で介護の、県としてはそういう人材育成等に力を入れていく、後は大きな施設とかを、特別養護老人ホーム等を作って待機している、入りたくても要介護度が高くても入れない方々を何とか支援していくような形を県としてもやっていこうというふうに思っています。

一次産業の事は、大紀町さんは本当に牛・酪農、とあわせて最近はブリの評価高くて、どんどん売り出していただいています。TPPというのが最近大筋合意というのがありました。三重県への影響というのは、まだ制度の詳細が分かっていますので、これから調整をしていくところでもありますけれども、例えば肉は、牛肉は七保のような、大紀町でやっていただいているような松阪牛とか、そういうレベルの高いやつは TPP でもほとんど影響がないと思います。でもそうじゃない牛肉、三重県で言うとブランド牛じゃないやつが25%ぐらいありますので、そこが結構影響が価格争いとかになってしまう可能性があるのと、豚肉は安いのが入ってきて価格争いが出てくる可能性があります。それから水産業の関係は、元々関税があまり高くないので、元々の水産業の構

造として、担い手確保とか、価格の低迷とか、燃料価格の高騰とか、そういうことの構造的な問題はあると思いますけれども、TPPで関税がなくなってどうこうというのは、水産業は比較的、さっきの豚肉とかと比べると影響は低いのかなというふうに思っています。後、酪農ですね。酪農のところは結構、大内山の様にブランド化されているところは、そんなにオーストラリア・ニュージーランドのそういう安いやつと競合という形にはなりにくいというふうに思いますが、ブランド化されていないところはさっきの牛肉と一緒に、安いのが入ってきたときに価格競争で戦いになってくる可能性があります。そういう意味で今申し上げたように、やはり付加価値をつけていく、ブランド化をしていくということで、さっきのブリの様に売り込みをしっかりとやっていくということが、TPPが来ても強みを発揮していくために重要なことだと思っていますので、そういうことをできる人材の育成ということ、県としては担い手の確保、量的に担い手を確保するだけではなくて、人材の育成というようなものにも力を入れていくのと、そういう先ほどのような売り込みの部分について力を入れていきたいと思っています。

それから大紀町も深刻だと思いますが、県全体でも大変深刻なのが獣害対策です。全県ではだいぶ侵入防止柵とか結構整備出来てきたんですけども、大きい畑とか田んぼの所は一定侵入防止柵とかできるようになったんですけども、小さいところがまだ整備できなくて、逆にああいう野生獣も頭使っているんですね、そういう小さいのを狙い撃ちみたいな感じで最近来てまして、そういったところの被害件数が結構増えてきていますので、そういう部分をどう守っていくかというようなこと。特にシカとイノシシはだいぶ三重県改善してきたんですけども、サルの被害額が去年・一昨年は全国1位とかいう状況なので、サルの大量捕獲とか、サルの動き・群れをキャッチする仕組みとか、今そういうのを検討して、獣害対策をなるべく減らし、この獣害で「せつかく農業やっても獣害がずっと続くんだったらもうこれは農業やめてしまおうか」というふうになってしまうといけないので、そういう所にも力を入れていきたいというふうに思います。

そして最後、防災のところでありますけれども、これは谷口町長のリーダーシップで全国の中でも錦タワーを中心として、後この避難路を今年度に整備完了するというふうに聞いていますけれども、相当なスピードの相当な規模の防災減災対策を町長のリーダーシップの元やっています。全国からも視察が相次いでいるそういうような状況であります。さらにそういうハード整備だけではなくて、ソフト対策もしっかり力を入れていただいています。今度12月7日ですかね大紀町防災の日も、全町を挙げて防災訓練やっただくというふうに聞いていますけれども、行政は公助の中でハード整備も頑張りま

すけれども、町も県も国も頑張りますけれども、実際に被害が、災害が起きた時に動いていただいて自分の命を守っていただくのは皆さんご自身なんですよ。訓練で出来ないことは本番絶対できませんから。ですので、訓練にもぜひ積極的に参加していただいて、それからもうひとつ大事なものは、自分の地域がどういう防災的なリスクを抱えているのか。土砂の事もそう、川の事もそう。自分の周辺地域・避難所の所も含めての、どういうリスクを抱えているのかという危険があるのかというのを徹底的に知っていただくというのはすごく大事だと思います。先月、桑名で液状化した時の訓練をやりました。水が液状化してとたまってくるんですね、40cm といっても相当ですよ、ひざ丈ぐらいありますから、その中を避難していくのをやったんですけれども、避難していったら土の緩いところで急にズボッと、腰まで入ってしまったような状況がありました。そこで、地域の皆さんと一緒に話をしたのが、やはり自分たちの地域がどういう災害の危険を抱えているのかという、自分たち自身がしっかり学ぶ・知っておくということが大事だと思いますし、そういうソフト対策のためにも訓練が重要だというふうに思っておりますので、ぜひ皆さんにも積極的にご参加いただいて、県としましてもこういう漁港整備とか、先ほど言いましたハード整備等もしっかり取り組んでいきたいというふうに思っています。特にこの錦漁港は先ほど言っていた今年度にはかさ上げと耐震化を完了して、来年度は岸壁の耐震化をさせていただきたいというふうに思っていますし、また来年度は錦漁港で漁港 BCP という災害が起きた時に、漁港の機能を復活させるためにどういうふうにやるかという計画を事前に作っておくやつなんですけれども、これは南伊勢町と大紀町ともう 1 個だけをモデルにしてそういうのを作っていこうというふうに思っていますので、万全の防災対策をやっていきたいと思います。

非常に重要な課題を町長からご提示いただきましたのでちょっと長くなりましたけれども、私の方からお話をさせていただきました。行政もしっかり頑張ってますけれども、皆さんの協力無くしては、先ほどのサミットの事も戦後 70 周年の事も少子化も高齢化も一次産業も防災もできません。ぜひこれからも皆さんのご協力を賜りたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。